



第1回 大田区景観まちづくり賞



賞の趣旨

大田区景観まちづくり賞は、景観まちづくりへの関心を高め、大田区らしい魅力あふれる景観形成をさらに推進することを目的として、下記の2部門で募集を行いました。

募集部門

部門名	街並み景観部門	景観づくり活動部門
募集内容	地域の個性が感じられる、あるいは魅力的な景観形成に貢献しているもの ・建築物等・街並み（公共空間を含む） ・みどり（樹林地、生垣等）等	区民・団体・事業者等が取り組む、魅力的な景観形成に貢献している活動
表彰対象者	景観形成に貢献した建築物等にかかわる所有者（個人、事業者）・設計者・施工者	活動の主体である個人・団体・事業者等

募集期間

平成27年7月13日(月)～10月30日(金)

応募件数

街並み景観部門 72件(67物件) 景観づくり活動部門 18件(15活動団体)

審査方法

大田区景観審議会の下部組織である景観賞専門部会が審査を行いました。
(委員：野原 卓、福井 恒明、杉田 早苗、杉山 朗子、田中 友章、平澤 芳雄、荏 真木子、加藤 芳夫)

受賞内容



大田区 景観 検索

発行日：平成28年5月

名称	桂川精螺の工場建築	
受賞者	株式会社桂川精螺製作所	
所在地	矢口3-24-1 東急多摩川線「矢口渡駅」より徒歩約14分	



概要

看板鉄塔とのこぎり屋根が特徴的な多摩川沿いに立地する1940年代の工場建築である。平成27年10月から12月までTBS系列で放送されたドラマ「下町ロケット」に出てくる佃製作所のロケ地になっていたことも記憶に新しい。

表彰理由

本施設は、独特な形状をもつ看板鉄塔やのこぎり屋根の工場群が特徴的な外観を形成し、必ずしも大田区で典型的な町工場の規模とはいえないものの、町工場が多く立地していたこの地域の土地利用を象徴する景観を有しており、ものづくりのまちである大田区を代表する建築物であるといえる。

看板群は第二京浜国道(国道1号)からの見え方、工場は多摩川堤防からの見え方を意識した形状となっていることが伺え、周辺地域との関係も意識したデザインとなっている。加えて、端正な立面のプロポーションや繊細なスチールサッシュの開閉部など、1940年代という時代を感じさせる意匠が残っており、町工場が減少して住宅を中心とした市街地に変容したこの地域に残存する景観資源としても貴重な建物となっている。

景観賞専門部会委員: 田中 友章
(明治大学理工学部建築学科教授)

名称	ヤマトグループ 羽田クロノゲート	
受賞者	ヤマト運輸株式会社 株式会社日建設計	
所在地	羽田旭町11-1 京浜急行空港線「穴守稲荷駅」より徒歩約5分	



概要

本施設はヤマトグループ各社の機能を集約したグループ最大級の物流ターミナルである。物流ターミナルでありながら、自然エネルギーの活用や大規模緑化等によって、環境保全や自然との調和を意識している。また、地域貢献エリア「和の里」においては、地域住民も利用できる体育館、保育所、スワンカフェ&ベーカリーを設置し、地域との共生を目指している。

表彰理由

本施設は、羽田空港に近接する大規模工場跡地に整備された大型物流ターミナルであり、大田区の景観特性の一つである「工業・流通空間」での景観づくりが求められた案件である。大型物流ターミナルは、その施設の性格上、地域のスケールに対して不調和なものとなりがちであるが、本施設では、環状8号線および人の流れの多い動線に対して圧迫感を与えないようなボリューム配置がなされるとともに、「前庭」的な空間として創出された地域貢献エリア(「和の里」)を中心に、地域との共生を意識した広場空間や柔らかなランドスケープの醸成が図られているほか、スワンカフェ&ベーカリー・保育所・体育館など、周辺と関わりあいをもつ「接点」となる空間が設けられている点などが高く評価された。

現地視察や審査の過程では、建築意匠における先進性・創造性・費用対効果、敷地裏側に対する圧迫感について、賛否両論の意見も出されたが、大規模な流通施設でありながら、工夫次第で魅力的な景観形成が実現可能であることを示した好例である。

今後、地域貢献エリアにある各施設が地域コミュニティの場としてさらなる活発な活動や維持保全が継続的に実施されることが期待される。

景観賞専門部会部会長: 野原 卓
(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授、大田区景観審議会副会長)

名称	蓮月	
受賞者	株式会社蓮月	
所在地	池上2-20-11 東急池上線「池上駅」より徒歩約8分	



概要

池上本門寺の周辺にある、昭和2年に建てられた木造の建築物である。当時は池上本門寺への参拝者の旅籠として使われ、その後は長い間1階は蕎麦屋、2階は地域の集会所・宴会場として使われ、地域に親しまれてきた。平成26年に蕎麦屋が閉店することとなったが、建物の保存・活用の機運が高まり、リノベーションが行われ、平成27年に現在の古民家カフェ蓮月がオープンした。

表彰理由

本建築物は、池上本門寺山門の西側に位置し、山門から池上梅園へ通じる本門寺関連寺院が建ち並ぶ散策路の近傍にある。本門寺周辺は大田区の歴史、自然及び景観上重要な場所であるとともに、近くを流れる呑川周辺エリアと相まって将来に亘り良好な景観形成が望まれる地域である。

本建築物は、貴重な昭和初期の木造建築の保全、活用という単体としての評価とともに、本門寺参道沿いの萬屋酒店等、点在する古建築と一体となり、本門寺周辺の景観形成に寄与している面も評価された。

門前町の風情を復活、整備させる拠点としても重要であり、古建築の意匠と雰囲気兼ね備え、今後も存続が望まれる建物であり、現在利用されている敷地内の庭も含め、更なる整備がなされ、建物と共に周遊の観光資源として定着することが期待される。また、施設の運営、維持管理がボランティア主体で行われており、今後地域コミュニティ形成の場として機能することも期待される。

景観賞専門部会委員:平澤 芳雄
(大田区景観審議会区民委員)

名称	紅葉通り(旧同潤会の住宅分譲地)	
受賞者	南雪谷自治会	
所在地	南雪谷4-3・10の一部、南雪谷4-4・9 東急池上線「雪が谷大塚駅」より徒歩約4分	



概要

関東大震災(1923年)後の復興事業として同潤会により昭和初期に東京郊外の各所で開発・供給された分譲住宅地のうちの一つである。モミジの並木が印象的な街路で、私鉄駅からほど近い住宅街の一角に残されている。

表彰理由

計画的な住宅地形成の歴史を今に伝える住宅地の街路景観である。

開発当初に植栽されたモミジが幅員の狭い私道の両側に並んでおり、一部は伐採されているものの少なからぬ本数が今も残り、それらが空間に落ち着いたリズムと心地よい佇まいをもたらしている。現地視察時はあいにく落葉後であったが、青葉や紅葉の季節には通行する人々の目を楽しませてくれるものと想像される。

開発当時に建てられた木造住宅がほとんど現存していないことから、景観における要素として街路・並木と建物との関係性という観点からは多少議論もあった。しかしながら、歴史を感じさせる特徴ある一帯の街並みや街路樹の魅力、また私道にもかかわらず植栽がかなり保全されていること、さらに全体としてまとまった区画規模が残されていること等を考慮・評価した。

今後も区内に残る貴重な景観の一つとして維持管理されていくことが期待される。

景観賞専門部会委員: 荘 真木子
(大田区景観審議会区民委員)

名称	小池の風景と住宅地	
受賞者	小池若者組合	
所在地	上池台1-36の周辺 東急池上線「長原駅」より徒歩約4分	



概要

上池台の住宅地にある小池公園を中心とした一角である。公園については、近年改修が行われ、環境に配慮し、ピオトープも設けられるなど、美しく生まれ変わっている。

小池の存在が良好な景観形成に寄与するとともに、洗足池とは異なり、池を中心にして斜面になっている部分に住宅があり、池と住宅が対話しているような空間となっている。

表彰理由

小池を囲む斜面に立地する住宅地が、坂のある台地と低地を結ぶ大田区の地形を象徴する独特な景観をコンパクトに形成しており、その景観を高く評価した。

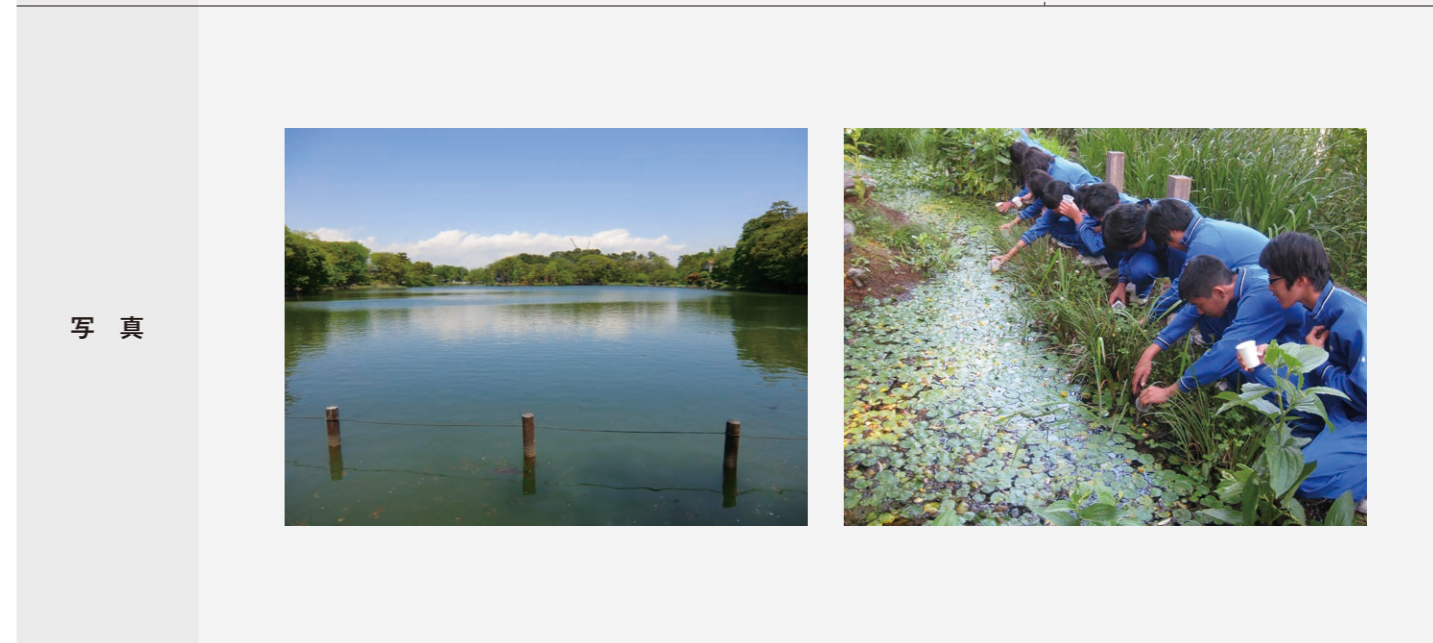
小池公園は2009年に“安らぎと潤い空間の創造”をコンセプトにリニューアルオープンした。中心の池は雨水・湧水を活用し、護岸は自然石、緑化は高木・中木・低木を組み合わせた植栽と水生植物などで緑の輪郭を作り出している。池周辺は多くの水鳥や魚などの動植物生態(ピオトープ)の観察もできる。坂を上り小池を見下ろす高台に立てば小池を囲む住宅地の風景だけでなく富士山を眺望することもできる。

また、小池公園を活用した年1回の小池まつり(小池若者組合主催)をはじめ、年3回実施される自然観察会(地域力推進雪谷地区委員会小池公園分科会主催)の場にもなっている。その他、小学校の協力により公園内の樹木に名前を付ける取り組みも行われている。水辺で遊べる親水エリアや池を1周できる回遊路も整備され、保育園など児童の遊び場、近隣住民の休憩スポットになるなど地域に親しまれている場となっている。

今後、この素晴らしい景観を保全するために、周辺の住宅地などを含めて、良好な景観形成が図られることを期待する。

景観賞専門部会委員:加藤 芳夫
(大田区景観審議会区民委員)

名称	洗足池及び周辺地区における環境保護・育成活動	
受賞者(活動団体)	公益社団法人洗足風致協会	
活動場所	洗足池とその周辺地域 東急池上線「洗足池駅」より徒歩約2分	



活動概要

1933年(昭和8年)設立以来、当時の組織の継承としては唯一の風致協会である公益社団法人洗足風致協会が中心となって、大田区とも協働しながら洗足池及びその周辺地区における環境保護・育成活動を行ってきた。近年は地元中学生と連携した取組として、昭和初期に生息していたホタルを復活させる「ホタル復活プロジェクト」に取り組み、環境指標生物であるホタルを通して、水質改善を行うとともに、景観をより良くしていく活動などを行っている。


表彰理由

洗足池及びその周辺は大田区の景観の基礎となる地形と土地利用による景観形成の経緯を知るに恰好の場所である。そこに東京都で唯一の「風致協会」が残されていることは大田区の誇りであるといえる。

洗足風致協会は、単に古いものを大切にするという考え方だけではなく、小学校・中学校などと共同で、毎年テーマを検討し、次世代の「風致」「景観の価値」を大切にす気持ちや行動力を醸成するという長期的な構想を持つ一方で、季節に合わせた毎日の植栽の維持管理にも取り組み、今なお生き生きと活動している、見事な景観まちづくり団体である。また、補助金を使うことなく、周辺の様々な問題にアプローチしながら、風致の維持に取り組んできており、風致協会制度が目指した「保存」と「利用」の両立を果たしてきた経営手腕にも感服する。地元中学生を巻き込んだ「ホタル復活プロジェクト」についても、ボランティアの協力も得ながら継続的に取り組むなど、地域力の向上に寄与する活動も行っており、将来への期待が膨らむ。

大田区景観まちづくり賞のお手本として広く区民に周知するとともに、このような取組が大田区のみならず、東京、ひいては日本全国で展開されることを願うものである。

景観賞専門部会委員:杉山 朗子
(株式会社日本カラーデザイン研究所シニアコンサルタント、大田区景観審議会委員)

名称	池上6・7丁目、東矢口周辺の花とみどりのコミュニティ活動	
受賞者 (活動団体)	なでしこの会	
活動場所	池上6・7丁目、東矢口1・2丁目の一部 東急池上線「池上駅」より徒歩約3分	



活動概要

地元住民から構成されるなでしこの会が池上6・7丁目間から東矢口に至る歩道の植栽帯の手入れを行うとともに、その活動報告をお便りで毎週近隣(180部)に配布し、地域との交流を図っている。

表彰理由

なでしこの会が生み出しているのは、花とみどり豊かな生活景である。そこには、特別な歴史や自然地形はないが、地域の人々を繋げる素晴らしい活動が展開されていることを高く評価した。

同会では自然体で無理をしないという明確なスタンスのもと、会員の意思を尊重しながらフレキシブルに行動する緩やかさがあり、月8回程の精力的な活動を継続していることから、会員が無理なく活動を楽しんでいる状況が伺える。活動資金の確保においても、会の趣旨に賛同した会員約70名からの会費と様々な公募助成の獲得により、自立した運営を行っている。また、地域の人々の繋がりをつくるという明確な目標を持っており、活動報告のお便りを毎週という高い頻度で近隣に配布し活動を周知するとともに、育てた植物を使った子ども向けのイベントの開催や地元障害者施設との交流など、地域の様々な主体を繋げる活動を積極的に行っている。

今後に向けては、植物の手入れ作業への参加が難しい高齢者のために居場所づくりを検討するなど、活動の広がりも期待される。

景観賞専門部会委員: 杉田 早苗
(東京工業大学環境・社会理工学院建築学系都市・環境学コース助教、大田区景観審議会委員)